

夏は過ぎましたが、子どもたちは半袖半ズボンで外に出て、元気に遊んでいるのではないだろうか。外で遊ぶと、虫に刺されて赤く腫れたり、草木や毛虫の毛でかぶれたりして、よく湿疹ができます。かゆいので手でかくと、その周囲に急速に水ぶくれができて、汁が出たりします。これが「とびひ」です。

とびひは俗名。正式な病名は伝染性膿痂疹。細菌による病気で、黄色いかさぶたができることもあります。細菌の付いた手で、虫刺されの痕などを触ったり、かいたりすることで感染を起こすのです。火事の飛び火のように、あつとい

## 皮膚の病気あれこれ

2

岩崎泰政

### とびひ



イラスト・霜野美香

### 細菌伝染あつという間

細菌がたくさんいます。これが、とびひを引き起こしてしまうのです。

季節に関係なく、かさぶたができるタイプもありますが、夏に子どもたちに多くできるのは、急に水ぶくれができるタイプです。黄色ブドウ球菌がつくる毒素が皮膚に付き、あつという間に水ぶくれをつくって、広がっていきます。

治療では抗菌薬を塗ります。炎症があればステロイド薬を塗った上で、傷を保護する軟こうを付けたガーゼで覆います。他の場所に伝染させないためです。

が、無意識にかきむしられることも防ぎ、正常な皮膚が再生されやすくなります。

しかし、とびひは難敵です。細菌の感染なので、抗菌薬を飲まないとなかなか治りません。最初によく使う抗菌薬が効かない場合があります。その場合は、別の薬に変更します。

虫に刺された時などは、とびひを防ぐため、シャワーなどで皮膚を清潔に保ち、手洗いも徹底しましょう。とびひになった子どもは、きょうだいに移さないように、最後に入浴させるようにしよう。

長 福山市

(岩崎皮ふ科・形成外科院